魔除け

あなたはすでに守られている

—見えない敵を服でブロック！—

2023.12.9 sat.〜
2024.2.14 wed.

開館時間　10:00〜16:30（12/15、1/19は19:00まで開館、入館は閉館の30分前まで）
休館日　日曜、祝日、振替休日　年末年始＝12月28日（木）〜1月5日（金）
入館料　一般500円、大高生300円、小中生200円　※20名以上の団体は100円引、障がい者とその付添者1名は無料
ギャラリートーク　12月23日（土）、2024年2月3日（土）13:30〜　※12:30より受付順30名

文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

頭飾り　中国　20世紀後半　撮影：安田如水（文化出版局）

新型コロナウィルスの世界的な流行は、病気の恐ろしさや、人生でままならぬ事態が突然起こりうることを改めて実感させました。科学の知識がない時代、病気や死は目に見えない「魔」によって引き起こされるものと信じられ、人体と外界との境目にある衣服には、「魔」から身を守る役割も求められました。人々は、「魔」を追い払い、さらに幸運を引き寄せる力があるとされる模様を衣服に表したり、装身具によって結界を築くなど、「見えない敵」から身を守り、より良い人生となるよう衣服に願いを込めました。本展では、日本と世界各地の民族衣装や装身具に見る魔除けや招福の役割を探ります。

「魔」を遠ざける

「魔」が苦手と考えられるものを身に着けることで「魔」を遠ざけようとしました。光を反射する素材や、揺れることで音が鳴るものを装飾した衣服や装身具、強い匂いを発する装身具などを身に着けました。

①音を出す首飾り／イエメン／20世紀半ば　②音を出す子守帯／ペルー／19世紀後期−20世紀初期　③ミラーワークのブラウス／インド／1970年代　④匂いのあるクローブを用いた首飾り／パキスタン／1970-80年代

①

②

③

④

「魔」の侵入を防ぐ

「魔」は、衣服の開口部などからも侵入すると考えられており、袖口や首元、裾などに結界を築きました。また、自身の目の届かない背中側に威圧的な模様を表すことも行われました。

⑤背守りのついた子供の着物／日本／明治時代後半　⑥背面に「目」のあるケープ／モロッコ／20世紀後半　⑦鋭く尖った腕輪／アフガニスタン／1970-80年代　⑧アフガニスタンの男性／1970-80年代／松島きよえ撮影

⑤

⑥

⑦

⑧

「魔」をまどわせる

勇猛な虎、毒を持つサソリ、ムカデ、蛇などをモチーフとした衣服や装身具を身に着けることで、自身に強い動物を憑依させようとしたり、それらの力を借りることで「魔」を躊躇させようとしました。

⑨鶏のトサカを表した子供の帽子／タイ／1990年頃　⑩虎をかたどった子供の靴／中国／20世紀　⑪大蛇の模様の腰巻衣／インドネシア／20世紀初期

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

魔除けの「赤」

血や炎、太陽を連想する赤は、特別な力を持つ色と認識されており「魔」を払う力があると考えられてきました。

⑫紅玉髄を用いた胸飾り／トルクメニスタン／19世紀後半−20世紀前半　⑬袖に赤い刺繍で模様を表したシュミーズ／マケドニア／20世紀初期　⑭ヘナで模様を染めたヘッド・スカーフ／モロッコ／20世紀半ば

⑯

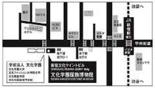
⑮

⑰

祈りと願い

「魔」から身を護るために神仏の加護を得ようと、お守りを身につけたり、護符の模様を衣服に表すことで信仰の証としました。

⑮ガネーシャ神の模様を表した入口飾り（部分）／インド／1970-80年代　⑯麻の葉模様の子供の着物／日本／大正時代−昭和時代初期　⑰ファーティマの手をかたどった頸飾り／パレスチナ地域／20世紀前半



文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM
〒151-8529　東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL.03-3299-2387　JR・京王線・小田急線新宿駅（南口）より徒歩7分
都営地下鉄新宿線／大江戸線／京王新線新宿駅（新都心口）より徒歩4分 地下道出入口O-1に隣接

学校法人 文化学園
文化学園大学／文化ファッション大学院大学／文化服装学院
文化外国語専門学校／文化出版局／文化学園服飾博物館

魔除け
—見えない敵を服でブロック！—